

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針		学校経営の中・長期を見据え、人材育成を核とするチーム力の強化と、各障がい種における専門性の向上及び新しい学校課題へのチャレンジ。			
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標		
(成果) ○本校で開催した令和7年度福岡県立特別支援学校第3回教育課程実践交流会は、これまで3年間の本校の研究成果を県内の特別支援教育に携わる職員に広く発信することができた。また、青柳祭をはじめ、一つ一つの学校行事等を通して幼児児童生徒の「できる！」を増やせるように、教職員一人一人が主体的に学校づくりに参画する意識を高めることができた。 ○防災訓練や緊急時対応シミュレーション後のアンケート等を通して、前年度の取組の検証・改善を積極的に図ることができ、職員の意識向上につながった。 ○PTA活動では昨年度に引き続き「みんなで掃除タイム」を実施し、保護者と幼児児童生徒、教職員が一緒に清掃作業に取り組むことを通して、お互いの親睦を深め、連帯意識を高めることができた。 (課題) ○各学部・課で、次のリーダーを担う人材を育成し、持続可能な組織づくりを推進する。 ○教科における学びを充実させるために、学部間の学びの連続性を図るなど、実態に応じたカリキュラムマネジメントを行う。	信頼される指導・支援の充実	○地域・医療・福祉・労働等との連携や産業現場実習等の充実や新規開拓による進路保障を通して、キャリア教育の充実を図る。 ○ニーズに応じた早期からの教育相談・巡回の充実や、センター的機能を担う人材の育成を通して、センター的機能の強化を図る。 ○教職員のキャリアステージに応じた職員研修とOJT及び外部専門家活用による自立活動の指導等の充実を通して、教職員の専門性の向上を図る。			
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実	○学校教育目標、個別的教育支援計画、年間カリキュラム、単元指導計画、個別の指導計画等を連動した系統的・計画的な指導を通して、「できる！」を増やすための授業実践を図る。 ○ICTの利活用による教育活動の充実とICT機器等の適切な管理を通して、ICT環境更新と積極的な活用及び情報発信を図る。 ○社会の変化に対応する行事等の立案と働きやすい環境づくりを通して、職員の連携やPTA活動の充実を図る。			
	安全・安心な教育環境の充実	○子供の主体性や人権感覚を育む児童生徒会活動及び行事等の推進といじめや体罰防止に関する計画的な取り組み及び指導体制の構築を通して、幼児児童生徒指導の充実を図る。 ○マニュアルの改善と安全管理の徹底による事故の未然防止・災害時の対応力の強化を通して、危機管理体制の充実を図る。 ○保健指導・医療的ケア実施・給食管理における校内や専門家との連携強化を通して、保健管理と保健教育の充実を図る。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
視覚障がい教育部門	幼・小学部	得意なことを増やして自信をもって取り組んだり、苦手なことに試行錯誤しながら挑戦したりする力を育てる。	できたことを褒め合うほめタイム(随時)、課題に取り組むチャレンジタイム(毎月)を行う。 がんばりを認め合う名人集め(学期1回)、苦手なことに取り組むチャレンジタイム(毎月)を行う。		
		体験に基づいた確かな言語を増やし、自分に合った方法で自分の思いや考えを伝える力を伸ばす。	言葉と事物・事象が一致するような言葉掛けを行い、具体的・体験的な活動を取り入れる(随時)。 具体的な体験を基に抽象的な表現を知ったり、より幅広く使ったりする活動を取り入れる(随時)。		
		友達や教師との関わりの中で多様な考えや方法を知り、課題解決に向けて自分でできる方法を工夫し、主体的に関わる。	自分の順番を待ったり、友達に譲ったりする場面を意図的に設定する(週1回以上)。 相手の考えを受け入れ、折り合いをつけながら、課題を解決する場面を設定する(学期2回程度)。		
	中学部	自分の出来ること出来ないことを知り、強みを伸ばし弱みを補っていく力を育む。	学級で自分の学習や生活規律を振り返る時間を設定する。(月1回) 自分の適性を知り、将来について考えるため、進路学習を設定する。(年間5回以上)		
		協調性をもちつつ、自分の意思や考えを伝えることができる力を育む。	各教科・領域の中で、学んだことを整理し表現できる活動を積極的に設定する。 生活規律の振り返りや、学習した内容をまとめたものを他者に披露する。(学期に1回)		
		興味・関心を広げることで、他者と関わる場に主体的に参加できる力を育む。	他学部・他部門・他校との交流を積極的に設け、学び合いの機会を増やす。(年5回以上) 行事の事前・事後学習の中で知識や技術を身に付け、よりよい他者との関わりを目指す。		
肢体不自由教育部門	小学部	自分の好きなことを見つける力を育む。	体験的な活動を仕組む。(毎日) 活動できる環境を設定し、継続的な指導を行う。		
		感情や意思を伝える力を育む。	表情や身振りから感情や意思を読み取ったり、選択する場面を設けたりする。(毎日) 文字や絵カード、ICT機器等を活用し、伝えることができる手段を増やす。		
		人や物とかかわり、集団生活の中で役割を發揮し、課題に取り組む力を育む。	人や物とかかわることができるように課題解決的な活動、集団活動を仕組む。(週に2回以上) 集団の中で自分の役割を意識できるように学習方法を工夫し継続的な指導を行う。		
	中学部	主体的に学習活動に取り組み、自己理解を深めることのできる生徒を育む。	自己理解を深めるために、新しい発見や気づきのある学習活動の工夫を行う。(1単元1以上) 学期毎に個人目標を設定し、達成に向けての場面設定を仕組み、「できる」を増やしていく。(学期毎1以上)		
		よりよい人間関係の構築のために、自分の思いや考えを相手に伝えることのできる力を培う。	身体表現カード、ICT機器等の活用を通して、社会参加に必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。 個に応じた意思表示の仕方を獲得するために、多様な場面において自己決定する機会を設ける。(毎日)		
		お互いの人格を認め合い、助け合いながら学習活動に参加し、興味・関心を広げようとする態度を養う。	集団や社会の一員である意識できるように、人や物事に関わる学習活動を意図的に仕組む。(毎日) 社会性の向上を目指し、体験的活動や集団活動等の充実を図り、楽しく参加する機会を設ける。(学期1回)		
	高等部	障がい特性を含めた自分の強み・弱みを理解し、自分の良さを伸ばそうとする態度を育む。	目指す姿をイメージできるように、自己理解に関する学習を設定する。(学期目標の設定など) 学習の成果や課題を確認して次のステップにつなげるために、自己理解を深める学習を設定する。		
		自分の考えや意見を相手に適切に伝える力を育む。	タブレット端末・スイッチ・カード等、実態に合った多様なコミュニケーション手段を活用を促す。 自分の考えをまとめ、学部全体や社会に発信する学習を設定する。(学期に1回)		
		集団や社会の形成者としての自覚を促し、主体的に社会参加する態度を育む。	学校生活をよりよくするために委員会活動に取り組む。また、取り組んだことを発信する場を設定する。 学年・学部行事や合同学習の中で、自己の役割を果たす機会を計画的に設ける。		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

